

青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和5年度 第220号 3月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

昨年11月25日(土)に行われた子育てフォーラムでの分科会の様子と今年度の保小中一貫教育(各委員会)の成果と課題をお伝えします。



第1分科会

「家庭でのメディアの実態」

(小中連携委員会)

第1分科会では、ご講演いただいた町田祐介先生にも参加していただき、家庭でのメディアの実態について、話し合いました。



① 家庭でのメディアの利用について

- ・ゲームの利用がある。小学生なので時間も増えて心配な面も。
- ・SNSにあげることもなく、使用の仕方は安心して見ている。
- ・SNSでつながる友だちもいる。その危険性を親が伝えていかなければと感じている。
- ・自分の部屋でSNSをやるようになってきている。
- ・基本的にスマートフォンを持たせていない。
- ・スマートフォンを中心に利用がある。町田先生のご講演で教わったことから、家庭で新たなルールづくりも必要。

② 小中に分かれて座談会を実施

〇もしも家庭でスマートフォンでの制限をかけるなら？

- ・スマートフォンのスクリーンタイムなどを実際に見てチェックする。
「子どもの方が実際に知っているかも」「こんな設定があるんだ」「親がしっかり見守る1つの方法です」「常にルールを見直す必要がある」「大人と子どもが常にルールを見直す」

〇ゲームの利用

- ・インストールしてゲームの利用をするケースが多い。
バトルロワイヤル系が 28% (青木小) → 4人に1人
30% (青木中)



※上記数字はアンケートの結果から特にクラッシュロワイヤルが増えている→「荒野行動」

○町田先生から

- ・リスクに対して予測することが重要。
- ・家族内での対話の必要性。
- ・失敗ありきで向き合っていくこともある。
- ・充電器が子ども部屋にあると危ない。
- ・ゲームはSNSに寄ってきている。異性、他校など関係なくなっている。子どもの知識は自分たち以上。



③ まとめ

メディアの実態は各ご家庭で様々です。ゲーム、スマートフォン、SNS利用が活発化しているなかで、各家庭での実態に応じたルールづくりと家族で対話する必要性を感じました。町田先生に入ってください、最新のメディア事情とその対策についても話し合うことができました。



第2分科会

「特別支援教育ってなあに？」

(特別支援教育委員会)

第2分科会では、特別支援教育に深くかわりのある沓掛教育長に特別支援教育とはどんなものなのかをご講演いただき、参加者で理解を深めました。

教育委員会 沓掛教育長より

(1) 特別支援教育で最も重要なこと

① 「その子らしさ」を伸ばす

人それぞれで考え方や行動は違っていることがあるが、その子その子の行動を否定せずに認めていくことが大事である。一つひとつの行動には意味があるため、どんなことを考えているのかを読み取り仮説を立てていくことも必要である。



② 「その子らしさ」を見極める難しさ

* 教育長の経験から実際の子どもの様子を例に関わりの難しさを共有。指示ばかりではなく、自分のタイミングで動けたこと認めていく。

* どの子どもこうなりたいという願いを持っている。子どもの思いを理解し、自信がもてるような支援ができることが、子どもを「育てる」ことになる。



(2) 発達のこと

①言葉の発達

子どもの発達を4段階（無意味発声期、大人の理解&模倣、話し言葉の発生、言語生活の確立）に表したもののから、何も無い言葉から意味を与えていくのは保護者の言葉がけによるものである。

②結論

- * 発達は1本線で登っていくのではなく、階段のように踊り場を経て登っていく。
- * 言語・学力は氷山の一角。下に大きな土台がある。（例えとしてはお供えもち）
- * 身体と心を育てなくては伸びていかない。
- * 学力も同じで友達と遊ぶことを通して、自分と他人との意識が育ち、関係性についての理解が深まる。集団の中に自分の居場所があることで自信ややる気が育つ。



(3) 青木村の特別支援教育の体制

①10年前から進められたインクルーシブ教育

- * スクールカウンセラーの巡回体制の整備により、いつでも相談を行うことができるようになっている。
- * 小学校や中学校での授業で視覚的に示して見通しをもてる授業づくりがなされている。また、「たんと」を誘致し、連携しながら療育を合わせて行うことができるようになっている。
- * その日のトラブルはその日に解決できるように対応していく体制。

②特別支援教育の理解

- * 小さいうちはたくさん支援を行い、少しずつ支援の量を減らしていくことが重要である。将来できるだけ少ない支援で生活できる力を育てることが求められる。
- * 支援学級から原学級に戻る子どもたちが増えることが重要である。
- * 知的障害児学級、情緒障害児学級があり、学びの内容に合わせたものにし、成功体験を増やして自信や意欲を育てることがねらいである。

③青木村の特別支援教育

- * 早期からそれぞれの担当者同士が顔を合わせて話し合い、連携を図ることができている。今後も丁寧な支援を行っていき、子どもたちがのびのびと生活をできるようにしていく必要がある。





「各委員会の成果と課題、来年度に向けて」

<5か条委員会>

今年度はあおきっ子教育ポイントの第3条の変更に伴い、保護者への提案の仕方や啓発のあり方を考えました。また、「子育てフォーラム青木2023」にて発表を行い、発信をしました。そして、青木村のいろいろな場所へ新しいあおきっ子教育ポイント掲示していただき、また全戸配布いたしました。

来年度は第3条の改訂後、さらなる保護者の意識の向上をねらい、今後の家族関係のあり方や子どもとの関わり方について考え、積極的に発信していきたいと思えます。また、情報交換を通して「うちもこんなことならできそうだな。」というようなことを提案していきたいです。



<子育て委員会>



「地域へ、人へ、つながっていこう」をテーマに、保育園、小学校、中学校で地域の方と関わっていただいた活動、授業で、どのような思いで関わっていただいたかメッセージを寄せ合う活動を行いました。地域の方々、子どもたちの思いを模造紙や紙にまとめ、写真と共に掲載し、「子育てフォーラム青木 2023」で展示発表をしました。その後は各学校、保育園で保護者や子どもたちの見える所に展示しています。また地域の方々や保護者の方に見ていただいた後、感想を寄せてもらうように、ポストイットを用意しました。

コロナがら類になり、制限がなくなる中、行事などで今までのように地域の方々との関わりをもつ機会を増やすことができました。地域の方々も温かい気持ちで子どもたちと関わってくださり、色々な活動を経験していく中で、繋がりを確認できました。

感想を寄せてもらうポストイットも用意しましたが、なかなか書いてもらうことができなかったため、もっと地域の方や保護者の方にも呼びかけたり、掲示場所や期間を工夫したりして、見ていただく機会を増やし、ポストイットで感想を寄せていただけたらありがたいです。



<フォーラム委員会>

今年度は、久しぶりに開催することができました。午前中開催で「発表→講演会→分科会」の順番で行いました。

あおきっ子教育ポイント5か条の第3条修正点を踏まえ、「メディアが子どもとどのように関わり、どのような危険性があるのか」をテーマに講演会を企画し、子どもとメディア信州の町田祐介さんを講師としてお迎えし、『子どもとメディアとの関わり方』という演題で講演会を実施しました。学校にメディアの使い方を指導されている立場から豊富なデータに基づき、これからの世代のメディアの大変化、そこに関わるリスクなど、とてもわかりやすく、興味深い内容の講演会になりました。

また、開会行事では5か条委員会が発表し、1階ロビーには、保小連携委員会や子育て委員会の、保育園、小学校、中学校と地域の方との関わりや交流の様子がよくわかる展示発表を行いました。また、



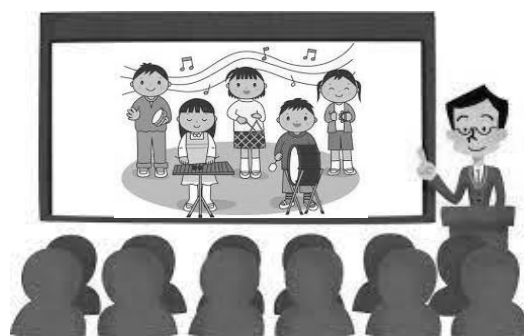
映像コーナーを設け、保育園児の元気な太鼓を演奏する様子や小学生の150周年記念音楽会の様子、中学生の文化祭での全校合唱の様子などを観ていただきました。

分科会は小中連携委員会と特別支援教育委員会の2つを開催しました。第1分科会では、講演をいただいた町田祐介さんも参加いただき、子どもたちのスマホやタブレットを利用する裏側には多くの危

険性が潜んでいること、これから先のメディアとの付き合い方について意見交換がされました。第2分科会では、沓掛教育長から子どもの姿の見方や事例についてお話をいただきました。意見交換のなかで「その子の動きから、その子のことを知ろう」という視点の大切さに気づかされる場になりました。

今年度のスタートにあたり、沓掛教育長から「コロナ感染症の影響が緩み、4年ぶりのフォーラム開催となる。無理をせず、可能な範囲で実施をしてほしい。」という話があり、教育委員会をはじめ、各委員会の各段な協力を賜り、「村を挙げての子育て」を感じる充実した手作りのフォーラムとなりました。

来年度は、今年度と同様に午前開催で、講演会や分科会、展示発表、映像コーナーを行いたいです。今年度の反省にやはり、学校の職員だけでなく保護者にも参加して欲しいとありましたので、保育園保護者会、小学校、中学校のそれぞれPTA役員を中心に声をかけ参加していただいたり、年度当初に予定に入れていただくように呼びかけをしたりしたいです。また、映像コーナーの内容を充実させたり、講演会の内容を保護者や地域の方にもアンケート等を取って希望を聞くようにしたりして、もっと参加したいと思ってもらえるフォーラムにしていきたいです。



<小中連携委員会>

本年度は、「無理なく、中学校への接続をスムーズに行う」をテーマに必要な事業を行いました。計画としては例年通りですが、中学校部活動壮行会見学、こまゆみ祭見学、小中連絡会、中学校体験入学を実施しました。また、小学校のニーズに応え、英語科出前授業、音楽科体験授業を小学6年生向けに実施しました。必要に応じた連携事業ができたと思います。次年度も、小学6年生にとって中学校生活が身近になっていくよう、柔軟に対応していきたいと考えております。また、子育てフォーラムの分科会では講師の町田先生、小中学校保護者の方にも参加していただき、「家庭におけるメディアの活用」について現状を知り、メディアのよい活用方法について話し合う座談会を実施しました。実生活に役立つ

つ情報もいただき、実りある座談会になりました。

次年度に向けて、各教科学習における連携も深めていき、教科学習の接続もスムーズに行えればと考えています。

<保小連携委員会>

保小連携委員会では今年度6月に小学校音楽会リハーサル見学、8月には小学校や中学校の職員に保育園に来てもらい、保小中一貫教育研修会を行いました。9月は小学校運動会に参加し、10月はハロウィン練り歩きを教育委員会や役場で行い、1年生と園児でペアを作り、手をつないで歩くことができました。12月には児童会まつりがあり、1月小学校体験入学がありました。他にも、いろいろと計画をしましたが、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの流行によりできなかった活動もありましたが、様子を見ながら保小の交流を行うことができました。

これからも保育園から小学校へのスムーズな接続ができるように、関わり合いがもてる活動が出来ることを願います。



<特別支援教育委員会>

今年度特別支援教育委員会では「園児、児童、生徒の現状の共有・連携」や「必要な支援の検討」を行いました。また、保小・小中の移行支援について「日程と内容の確認」や「保小中での情報の共有」を行い、スムーズに移行できるようにしました。子育てフォーラムでは「分科会の内容の検討」「分科会の準備・運営」を行い、特別支援教育について改めて考え直す良い機会をもつことができました。

来年度はさらに情報共有や事例検討を行っていきたいと思います。そして、実践につながるような支援グッズなどについても情報交換していきたいと考えています。

子育てフォーラムの分科会については、参加していた方々の大半が職員だったため、保護者の方々の参加に向けての取り組みを考えていきたいです。また、内容についても今回の内容を発展させていけるように考えていきたいです。

<保健教育委員会>

今年度は、主に保小中の栄養士と、村の管理栄養士の連携をつなげる場として「保健井戸端会議」を年5回開催しました。毎回1時間程度、各園・校の様子から困り事・願い等を出し合い、子どもたちの保健に関わる様子の情報共有し、課題解決になるように話し合いました。

来年度も今年度同様、月に1回「保健井戸端会議」（名前も要検討）を開催し、様子を共有していきたいです。そして、いずれは食から子どもたちの健康へとつながる委員会になれば、と願っています。



編集後記

3回に渡り「子育てフォーラム 2023」の内容と、合わせて保小中一貫教育委員会の一年間の活動内容をお伝えしました。来年度はたくさんの方のご参加をお待ちしています。

